寄せ太鼓

第　２　号
平成13年8月1日発行
北九州市立長崎街道
木屋瀬宿記念館
運営協議会広報部会
℡６１９－１１４９

運営協議会各部会の紹介

○運営事務局

今回より、運営協議会の各部会を紹介していきます。

運営事務局は、運営協議会の管理部門として、庶務経理事務を行っています。また、総会の準備・進行、街並みボランティア関係事務も行っています。

○委員の紹介

事務局長　数住　昌子
委　　員　梅本　静一
　　坂本　英晴
　　藤　　政文
　　水上　眞弓

総会報告

平成１３年４月２６日（木）こやのせ座におきまして、平成１３年度第１回北九州市立長崎街道木屋瀬宿記念館運営協議会総会が開かれました。

出席者は、記念館運営協議会理事長・副理事長・理事・委員で、合計３１名でした。

平成１２年度の事業報告・決算報告、平成１３年度事業計画案・予算案が議題として審議され、すべて承認されました。

その他質疑応答では、委員から、記念館の運営などについての質問・意見などが数多く出ました。

記念館の利用状況

平成１３年１月１日に開館して以来、多くの皆さまに利用していただいてます。

開館より、６月３０日までの利用者数は次のとおりです。

	みちの郷土史料館	こやのせ座
1月	１２，３００	１２，４３２
2月	２，５４８	８２９
3月	２，３５３	１，４５３
4月	１，６３１	９８９
5月	２，０４５	８４４
6月	１，０２５	５６６
合計	２０，８７７	１６，５４７

記念館のご利用について

寄せ太鼓第１号で、「記念館のご利用について」を掲載していますが、市民の皆さまに積極的に利用していただくために、再度掲載いたします。

なお、詳細については、記念館０９３－６１９－１１４９にお問い合わせください。

○ 休館日　毎週月曜日（ただし、その日が祝・祭日、振替休日の場合は、翌日）
○ 開館時間
　みちの郷土史料館　午前９時から午後５時30分（入館は午後５時まで）
　こやのせ座（利用時間）午前９時から午後１０時まで
　ふれあい宿（利用時間）午後６時から午後１０時まで
○ 入館料（使用料）
　みちの郷土史料館　一般２００円　高校生１００円　小・中学生５０円
　こやのせ座　午前・午後・夜間及び平日、土、日（休日）により料金が異なります。記念館までお問い合わせください。
　ふれあい宿　ガス代、冷暖房費の実費を負担していただきます。

木屋瀬宿まち並み案内ボランティア　大募集

寄せ太鼓第１号で募集いたしました、「木屋瀬宿まち並み案内ボランティア」を、引き続き募集しています。

木屋瀬地区内外から、木屋瀬宿のまち並みを見学に来られたお客様（１グループ概ね 10 名以上）の希望により、ボランティア活動として、まち並みを案内していただける方を次のとおり募集します。

1　年齢等　満 20 歳～65 歳　性別不問
　　健康な方
2　知識、経験　いりません。後日研修を行います。
3　１回あたりの案内時間　約 60 分
4　手当、制服　なし
5　申込方法

はがきに住所、電話番号、氏名、生年月日、性別を記入のうえ、下記まで送ってください。締め切りは８月 31 日（金）消印有効。

〒807-1261 八幡西区木屋瀬 3-16-26
北九州市立長崎街道木屋瀬宿記念館内
運営協議会事務局　℡093-619-1149

「コンサート」を終えて　数住　昌子

春、４月２２日、「こやのせ座」で女声コーラスいちょうの会は「２００１年メモリアルコンサート」を催しました。

心配された雨もあがり、開場前から列をなして御来場いただき、会場は賑やかに、そして華やいだ空気に包まれました。暗転した会場に真赤なスポットが背景にあてられ、団員の黒いシルエットが浮かび上がり、第一部「日本のうた」が始まりました。第二部は、御好意で参加下さった九響との共演で「春」「冬の花びら」「少年」と歌い進み、第三部九響の「弦楽四重奏の調べ」第四部は合唱組曲「水のいのち」を熱唱いたしました。約二時間の演奏は、超満員のお客様の温い拍手で大盛況のうちに終わりました。１週間に３日の練習、特に日曜日は朝から弁当持ちで頑張った団員の皆さんも、御家族をはじめ、周りの方々の御協力なしには出来なかったと思います。

最後に大勢のご支援いただいた皆様に心よりお礼を申し上げます。ありがとうございました。

☆こやのせ座の今後の行事☆

北九州国際音楽祭がこやのせ座にやってくる！

日　時　11 月８日（木）14:00～
出演者　稲本　響（ピアノ）
曲　目　ｼｮﾊﾟﾝ･幻想即興曲､ﾘｽﾄ･ﾊﾝｶﾞﾘｰ狂詩曲第２番等
＊　入場料は無料ですが、往復はがきで申し込む必要があります（応募多数の場合抽選）。
往復はがきに、「11 月８日こやのせ座ﾐﾆｺﾝｻｰﾄ」と記入し、住所・氏名・電話番号を記入のうえ、下記までお送りください。(8 月 31 日〆切)
〒805-0019 八幡東区中央 2-1-1 ﾚｲﾝﾎﾞｰﾌﾟﾗｻﾞ 7F
（財）北九州市芸術文化振興財団内
北九州国際音楽祭実行委員会事務局

木屋瀬祇園宿場祭ビデオ上映・写真展

７月 14・15 日の２日間、こやのせ座で開催した「木屋瀬祇園宿場祭ビデオ上映・写真展」を好評につき再度実施します。

日時　８月 14 日（月）・15 日（火）9:00～18:00

＊　木屋瀬祇園宿場祭のビデオは 10:00 より 17:00 まで１時間おきに上映します。
ビデオの上映時間は約 15 分です。

＊「寄せ太鼓」は広報部会の委員が中心となって発行しています。

広　報　部　会
部会長　本松　達也
委　員　千々和　裕、米永　博實、野口　靖彦、伊藤　征剛、矢野　圭樹、北崎　隆喜、柴田　由美子、小河内　励子

筑前木屋瀬お祭りのごっつおう（ごちそう）その二

正月（むつき）
おせち（三ヶ日）
○かずのこ○くろまめ○おひら・こんにゃく・ぶり・青味○だいこなます○白ごぜん○川魚の味噌汁を三ヶ日うちに吸うと夏患ひせぬ。

福入りざうすい（四日）
○おみいさんに餅を入るる○具はあんまり入れぬこと○フウフウ吹かんでたぶること（福がにぐる）

七草つみ（六日）
○おんばこ・ほおそばな・たんぽぽ・はぎな・がらがら・せり・とのさまぶつ○七草のいがき汁を風呂に入るる（風呂から上つち、爪をつんでおくと毒蟲にさされぬ）

＊故岩尾四十三郎氏著書「ひろき庭」より掲載しています。

昔々の木屋瀬の話

新地町の故千々和勝蔵さんのお話。対談時九十歳でした。
（A千々和勝蔵さん　B尋ねた人）

B　千々和さんのように長生きされますと、世の中も変わった事でしょうが。貴公はずっと前から、新地町に居られたのですか。

A　ハイエナ私や大火事に焼け出されチ。今ンとこさい移ったとで、それまヂャ本町にいました。

B　そうですか。

A　本町ニャとんやも郡家もあっチネエ、何んチ言うたチ本陣があっチナイ。今の酒屋ンとこからずーと自転車屋までが本陣でネエ。白壁の六尺以上もある高ケエ塀がずーっとありましチネエ。大けな門こうめー門がありました。

今の天理教のある所が脇本陣でネエ、本陣と脇本陣のあいに天狗銀杏と言いよった、大けな銀杏の木があっチネエ。これに天狗が巣を喰うチョッたよ。

B　ほほー天狗がね。

A　イタチが出世シチ天狗になったんでネエ、私どまあコオメ時、よう石をチッカケよった。

B　殿様の行列やら、おぼえておられますか。

A　ヘエーそりゃもうあんた、殿様の上にあがっチョルごたあならん。ソーヨ下におれチ土下座シチョりました。「下に下に」チ言うチ、おふれがありまっしょうが。それからは頭を上げる事はならんケンド、そりゃもういやいやなもんじゃったネエ。子供がヒョロヒョロと出たげナ代官が親をつんのうチ。黒崎までお断りに行きよりましたバイ。

長崎のお姫さまが、指金を撒かれましたチナイ。それがあんた行列が通ッチしまわっせんゲナ。拾うこたあなりまっせんじゃった。

行列の荷物運びに方々から大層な若者が、ソーヨ馬をつんのうチ来ましょうが、その馬がヒーンヒーンチ言うチ。町ちん中いっぱい居チ。私どまあ通りぬけきりまっせんじゃった。

こんな時分ニャ、町中がこん達の宿になりよりましたバイ。

B　大変な賑わいの町になっていたようですね。

A　ヘェーヘェーそりゃもう大変な賑わいでござした。

＊このお話しは、故柴田豊廣氏遺稿集より掲載しています。

おや子ふれ合いウォークラリー

六月十六日（土）、木屋瀬小学校二年生のお友達が、記念館や伊馬春部邸などに遊びに来てくれました。そして、その時のお礼状がたくさん届きました。ここでは、そのうちの何点かをご紹介します。

記念館（こやのせ座）

○こやのせざのぶたいはとてもきれいですね。二かいのおざしきですわったらとてもいいきもちでした。またこんどもいきたいです。とてもたのしかったです。

○このまえは、けんがくさせくださってありがとうございます。とてもいいおもいでができました。まだできたばっかりだったからとてもきれいですね。ほんとうにありがとうございました。

伊馬春部邸

○いまはるべていには、いろんなものがいっぱいあって、楽しかったです。ありがとうございました。かまどや井戸があって、井戸の中にかえるがいました。

○このまえは、ありがとうございました。おじさんのおかげで、いろんなことがわかりました。いまはるべさんは、しをかく人なんですよね。いどうするまどもおじさんのおかげでよーくわかりました。ありがとうございました。

伊馬春部と放送劇

NHKラジオ帯ドラマ「向う三軒両隣り」を他二名の作家と輪番担当。昭和二十二年七月から二十八年四月まで連続し、五年十ヶ月間、一三七七回の放送。日本の放送史に長期連続の新記録を樹立し、ホーム・ドラマの見本になった。

同年（昭和二十八年）「ある自転車泥棒の話」が放送されている。日本で、自転車がまだ貴重品だった頃のお話しである。

昭和二十七年一月、ラジオドラマ「屏風の女」放送。声優厳金四郎、夏川静江ら、当時の超一流のメンバー。聴覚だけの芸術でなければ表現できない夢多い作品と絶賛され、西ドイツから日本の代表作に選ばれ、独訳されて「世界の二十人の作品」の一つとしてヨーロッパの諸国に放送されるに至る。

放送の前年、折口信夫直門の能登旅行で、古風な旅館に投宿。ついたてに貼った婦人雑誌の口絵写真が目につき、この絵や旅館の雰囲気を素材にして、幻想的なラジオドラマ「屏風の女」を創作した。いわば、彼の旅行趣味の所産である。

＊「屏風の女」「ある自転車泥棒の話」は、伊馬春部生家にある旧式ラジオで聞くことができます。

木屋瀬の伝統的祝賀

○古稀　古稀の賀を迎えて

森本　道昭

二〇〇一年長崎街道木屋瀬宿記念館がオープンした記念すべき年、七月一日恒例の古希の賀があり、昭和七年四月より昭和八年三月生まれの者五十八人が由緒ある須賀神社にてお祓いを受け長寿を祈願致しました。

遠くは東京から参加があり、幼なじみも四十四賀で出会った同年の友も皆戦争を体験し戦後の混乱期と激動の半世紀を生きて来て、今日めでたく古稀の賀を迎えられたことは感慨ひとしおである。

みんな年齢を感じさせない若々しく元気で、次の喜寿の賀で又全員参加が出来るように、これからも健康に留意し目標をもって充実した日々を送るように再会を誓い合いました。

木屋瀬宿に古来より受け継がれてきた、人生の節目々々に、行われる初老賀・還暦賀そして古稀の賀など、伝統のあるこの賀の会を大切に次の世代にも受け継がれて行ける様にと願ってやみません。

○還暦　還暦の賀に参加して

井上　春子

四十五年ぶりに同級生との再会を果たした。届いた集合写真を見て思う。それぞれが家庭を持ち、家族を愛し、それぞれの人生を歩いてきたのだ。気負いのないいい顔をしている。一人一人と、もっと話がしたかったと思う。

思いがけなく宿場踊りを踊った。幼い頃、浴衣を着せてもらって嬉しくて踊りの輪に入って踊った幼なじみが七・八人さっとステージに上がった。五十年経っても、すぐに出来る共通のものがあるというのもうれしい。

東京、千葉と暮らし、盆踊りの定番が「炭鉱節」なのを知って、木屋瀬は独自の踊りを持っていて実に格調が高いことに気づいた。

伝統の行事や古いものを大切に繋げていく多様化する町の中で、その努力は並大抵ではないと思う。今回の参加は、同級生との再会の喜びと共に改めてそんなことを私に気づかせてくれた。これも還暦にまで年を重ねた賜かもしれない。

還暦祝賀宴

来館者の声

みちの郷土史料館

○最新の情報機器を駆使するとともに、手にふれる物を多く取り入れており、歴史資料館としては、高い水準を感じた。（福岡市・四十代・男性）

○長崎街道等テレビで時々見たりするが、あまりくわしい事を知らなかったが、宿場おどり、街並等色々な事が解かりました。又、ゆっくり時間をとって見に来たいと思います。（八幡西区・五十代・女性）

木屋瀬寄席　柳亭燕路独演会

（六月九日　こやのせ座）

○声も大きく後の方でもよく聞こえました。とても面白くて、出身が小倉と聞いて、同じ北九州出身として嬉しく思いました。一度とは言わず、何度でも来て頂きたいと思います。大変楽しかったです。（八幡西区・五十代・女性）

○落語を聞くのは初めてでしたが楽しかったです。劇団の演劇なども見てみたい。（八幡西区・二十代・女性）

一人芝居　小笠原町子

（六月三十日　こやのせ座）

○　主人公の苦労話は母親とだぶる所もあり、うちの母にもこんなすてきな老後を送ってほしいと思いました。（福岡市・二十代・女性）

○わかりやすい言葉でとても親近感がありすばらしかった。子供達にも聞かせてほしい。（八幡西区・五十代・女性）